

流鏑馬が祭りに登場する場合、様々な形があります。毛呂山町や埼玉県内の鎌倉街道沿いにあった流鏑馬は、流鏑馬が祭りの中心となっていますが、別の祭りの一部として流鏑馬を行う場合もあります。栃木県小山市の篠塚稲荷神社の流鏑馬は、

**流鏑馬が祭りに登場する場合、様々な形があります。毛呂山町や埼玉県内の鎌倉街道沿いにあった流鏑馬は、流鏑馬が祭りの中心となっていますが、別の祭りの一部として流鏑馬を行う場合もあります。栃木県小山市の篠塚稲荷神社の流鏑馬は、**

流鏑馬が祭りに登場する場合、様々な形があります。毛呂山町や埼玉県内の鎌倉街道沿いにあった流鏑馬は、流鏑馬が祭りの中心となっていますが、別の祭りの一部として流鏑馬を行う場合もあります。栃木県小山市の篠塚稲荷神社の流鏑馬は、



座布団を背に積んだ飾り馬

初午祭で飾り馬の巡行に流鏑馬が伴っている祭りといえます。

### 古く歴史と開運の町・小山市

栃木県南部に位置する小山市は、古代は国府・国分寺・国分尼寺が置かれ、下野国の中心地として栄えました。中世には平安時代末期から小山氏が活躍し、江戸時代には日光街道の宿場町として賑わい、豊かな伝統のもと発展してきました。人口約16万2千人、面積は約172平方キロメートル、関東北部の交通の要衝地にあり、地域の中央を流れる思川もかつては舟運が盛んだった河岸です。また、小山市は「開運のまち」といわれますが、これには日本の歴史を左右するような大きなできごとに関係があります。ひとつは源頼朝に關することです。12世紀中頃、弓の名手藤原秀郷の子孫にあたる政光が「小山」を名乗り、小山氏が興りました。小山氏は政光の妻寒川尼が源頼朝の乳母だったため、源頼朝に付き、寿永2年(1183)、現在の栃木県野木町域で繰り広げられた「野木宮の合戦」で頼朝に敵対する常陸国(茨城県)の志田義広を敗走させました。この戦いは、頼朝を平家打倒に向かわせた重要な戦いとなりました。

ふたつめは徳川家康に関するもの



騎射のようす

役割があります。飾り馬は神馬であり、神馬を飾った布団は赤ちゃんを健康に育てるお守りとなります。神馬を出す家は名譽なことではあります。流鏑馬を行うには若くて良い馬でなくてはならず、神馬とした馬は、流鏑馬以後、農耕馬として使わず、そのまま手離してしまったり、異なりますから大変な負担だったに違いありません。

### 豊凶占いの伝承

流鏑馬の占いはよく聞かれる伝承ですが、ここ篠塚稲荷神社の流鏑馬でも一の的は早稲、二の的は中稲、三の的は晩稲が豊作になるという伝承があります。古い起源をもつ太々神楽もあわせて奉納され、餅投げも行われ、参拝者の賑やかな歓声があがります。祭りの日は、地域の人たちがどこからともなく集まり、楽しみに待っていた様子が伝わってくるほのぼのとした祭りです。

### 飾り馬と流鏑馬

篠塚稲荷神社の流鏑馬は、小山市大字大本・小葉・松沼の3地区で行なっています。当社の流鏑馬は馬の背中に和鞍を付け、その上に7枚の布団を重ね、華やかな帯を垂らし、布団の上には大きな御幣を祀って地区中を練り歩く飾り馬とともに行われています。飾り馬には、神を迎えて送る神様の乗り物としての重要な



栃木県小山市